

2022年度学習支援ボランティアに関する活動報告 盛岡市立上田小学校及び仁王小学校の実践

仁昌寺 真一*, 佐藤 寿仁*

(令和5年2月1日受理)

1 学習支援ボランティア活動の目的(趣旨)

地域の学校への学生派遣を通し、学校教育の実際、教職員の指導や学級経営、子どもの思い、保護者や地域の方々の思いを知り、教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに、課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験等に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。

2 学習支援ボランティア活動の実施構想

【資料①「学生の学校派遣実施計画」】参照

3 学習支援ボランティア活動実践の経過

(1) 上田小学校・仁王小学校への依頼・共通理解(令和4年4月19日・20日)

上田小学校、仁王小学校へ出向き、それぞれの校長へ学習支援ボランティア活動の受入れを依頼し、了解を得た。【資料①「学生の学校派遣実施計画」資料②「学習支援ボランティア活動年間スケジュール」】をもとに、活動の目的や進め方、年間スケジュール等を共通理解した。

昨年度同様、上田小学校・仁王小学校の2校で、6月から開始する予定とした。

(2) 学習支援ボランティアの募集

(令和4年4月22日～5月6日)

【資料③「学習支援ボランティア募集」】のちらしを作成し、学生に広報し、ボランティア登録の意志を募った。広報活動として行った方法は下記の通りである。

○拡大募集ちらしの掲示(教育学部玄関)

○他の学習支援ボランティア活動との合同説明会(ボランティア登録意志がある学生への募集ちらしの配付・説明⇒3日間で約70名参加)

今年度は、下記の点について留意し募集することとした。

- ①仁王小学校、上田小学校、両校希望の3つを選択肢とする。
- ②1年生から4年生まで学年を固定せず、オープンにして募集する。教育学部に入った学生に対し、できるだけ早く学校現場の雰囲気を体感する場を保証したいと考えた。
- ③QRコードから入力フォームにアクセスし、容易に申込みができるようにした。
- ④教育学部ホームページへ募集ちらしを掲載し、いつでもどこでも目にし、申込みができる体制を組んだ。
- ⑤教員採用試験結果発表後、4年生に対し、学習支援ボランティア登録の再募集をする。

(3) 学習支援ボランティア登録者の把握

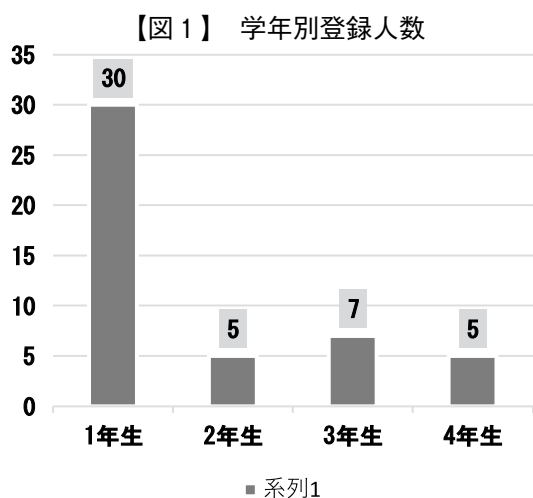
(令和4年5月9日～20日)

募集の結果、学習支援ボランティアの登録数と特徴は下記のとおりであった。

*岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

【表1】学校別・学年別学習支援ボランティア登録者数

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 上田小学校 | 11名 | 3名 | 1名 | 1名 | 16名 |
| 仁王小学校 | 2名 | 0名 | 0名 | 2名 | 4名 |
| 両校 | 17名 | 2名 | 6名 | 2名 | 27名 |
| 合計 | 30名 | 5名 | 7名 | 5名 | 47名 |



【図2】学年別登録人数と割合

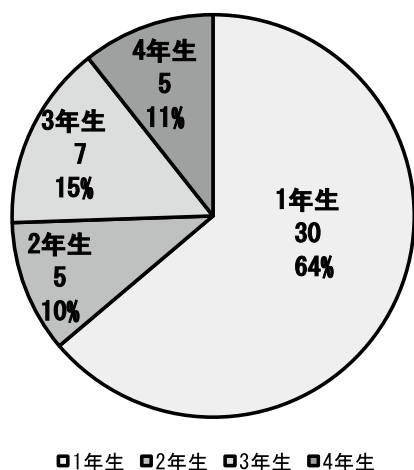


図1・2より、1年生の登録数が最も多いことが分かる。また、学年の偏りがほぼなく、どの学年からも学習支援ボランティアの希望者が出た。このことから、学年を固定せず、全学年から学習支援ボランティア登録者を募集したことは妥当であったと考える。

【図3】学校別登録人数と割合

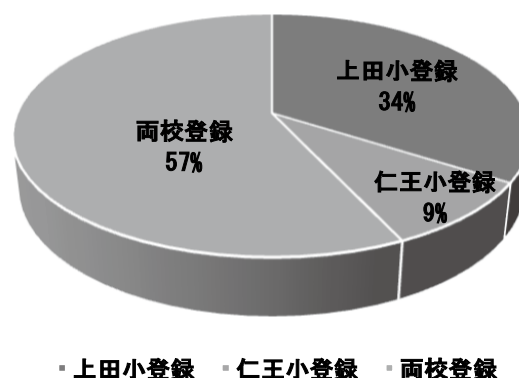


図3より、大学に最も近い上田小学校を希望する学生が多く、両校希望の学生を含め、全体の91%を占めていることが分かる。両校希望者が最も多いことから、学習支援ボランティア体験に対するニーズの高さを感じた。

(4) 保険加入の手続き（令和3年5月25日）

ボランティア活動中における事故は、今年度から学生教育研究災害障害保険で対応することとし、登録した学生が加入済であることを確認の上、活動を開始することとした。

(5) 学習支援ボランティア活動事前説明会の開催（令和4年5月25日 北桐ホールで対面実施）

【資料④ 学習支援ボランティア活動実施要項】を活用し、対面による事前説明会を開催した。

事前指導内容は、YouTubeにアップ配信し、都合により参加できなかった学生が、後日、必ず視聴するように告知した。事前説明会で確認したことは下記のとおりである。

- ・学習支援ボランティア活動に望む態度
- ・学習支援ボランティア活動の進め方
- ・学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き
- ・活動を行う際の留意事項
- ・「学習支援ボランティア活動実施報告書【資料⑤】」「学習支援ボランティア健康観察票【資料⑥】」の配付と書き方

今年度は、コロナ禍での学習支援ボランティア活動が安全に、且つ円滑に推進できるよう、特に、健康観察票を活用し、毎朝検温したり体調をチェックしたりして、体調を自己管理することを強調した。

(6) 各小学校訪問（令和4年5月31日）

【資料⑦ 校長宛文書】や登録者名簿を持参し、受入れ校である上田小学校、仁王小学校を訪問し、学習支援ボランティア活動を実施するにあたり、実施の目的や流れ等を再確認した。なお、新型コロナウイルス感染症への対応策として、健康観察票を活用し体調を自己管理することについて説明し、理解を得た。さらに、10月下旬、教員採用試験結果発表後、4年生の学生に限定し、学習支援ボランティア登録の再募集をすることについて趣旨等を説明し、共通理解を図った。

(7) 学習支援ボランティア活動の実施（令和4年6月1日～2月）

①実施した主な学習支援ボランティア活動

（詳細はアンケート結果参照）

- 朝学習計算タイム個別支援・丸付け・アドバイス書き
- 算数科や家庭科の授業補助（算数の個別支援、ミシン縫いやアイロン掛けの個別支援等）
- 校外学習引率補助（バス乗車学習等校外での学習活動引率補助）
- 遠足引率補助
- 放課後学習支援（丸付け・個別支援 等）
- 家庭科ミシン縫い等操作補助
- スケート教室指導補助（スケート靴の紐結び・滑走補助等）

②活動の留意点や配慮事項

- 新型コロナウイルス感染拡大防止策をしっかりと講じる。（毎日の検温・来校時の検温：非接触型検温器の購入、貸与 マスクの着用等）
- 小学校との情報交換を適宜行い、円滑かつ、効果的な学習支援ボランティア活動の実施を目指す。
- 学習支援ボランティア活動に参加した学生の声を、適宜、登録者全員に伝え、活動の促進を図る（学習支援ボランティア活動実施報告書の記載内容等から）。
- 教員採用試験結果通知後、4年生の学生に限定し、学習支援ボランティア登録の再募集を行い、4月からの教員生活に向け、学校現場での体験ができる場を保证する。

(8) 4年生に限定し、学習支援ボランティアの再募集（令和4年10月3日～25日）

【資料⑧ 学習支援ボランティア再募集】のちらしを作成し、4年生の学生に限定し広報し、ボランティア登録の意志を募った。広報活動として行った方法は下記の通りである。

- 拡大募集ちらしの掲示（教育学部玄関）

再募集の結果、学習支援ボランティアの登録数は下記のとおりであった。

| | 4年生 | 合計 |
|-------|-----|----|
| 上田小学校 | 0名 | 0名 |
| 仁王小学校 | 2名 | 2名 |
| 両校 | 2名 | 2名 |
| 合計 | 4名 | 4名 |

(9) 学習支援ボランティア再募集者による事前説明会の開催（令和4年10月31日 E36教室で対面実施）

【資料④ 学習支援ボランティア活動実施要項】を活用し、対面による事前説明会を開催した。事前説明会で確認したことは下記のとおり。

- ・学習支援ボランティア活動に望む態度
- ・学習支援ボランティア活動の進め方
- ・学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き
- ・活動を行う際の留意事項
- ・「学習支援ボランティア活動実施報告書【資料⑤】」「学習支援ボランティア健康観察票【資料⑥】」の配付と書き方

事前説明会で特に強調したことは、4月からの教員生活に向けて、課題意識を具体的にもって学習支援ボランティア活動に当たること、コロナ禍での活動であるため、感染対策や体調の自己管理をしっかりと行うことを確認した。

(10) アンケートの実施

(令和4年12月20日)

①受入れ小学校、地域コーディネーターへのアンケート (12月20日)

②登録学生へのアンケート (12月20日)

《アンケートの結果から》

①受入れ小学校《2校》

ア 学生に依頼した活動内容

- 朝学習・計算タイムの個別指導と丸付け (全年)
- 生活科のザリガニ釣り同行支援 (2年)
- 水泳・水遊び学習支援
- 球技大会練習 (サッカー・バスケ) 指導
- 球技大会ミニバスケットボールオフィシャル指導
- 校外学習同行支援 (小岩井農場 1年)
- 家庭科ミシン指導支援 (5・6年)
- 放課後学習支援 (主に国語や算数の学習の丸付けや直しなど)
- 遠足の引率支援

イ 学生による学習支援ボランティア活動を実施してみた成果

- 子どもたちが問題を解いた大量のプリントの丸付けや考え方に関わる個別指導 (直接指導とプリントへの間接指導) により、即日、子どもたちに返却することができた。子ども一

人一人の学習意欲の向上に大きくつながった。

- 家庭科におけるミシンやアイロン掛けの個別指導により、子ども一人一人の作業がはかどり、技能向上に寄与した。また、安全に活動することができた。
- 校外学習や遠足の同行支援により、安全な学習が確保できた。また、行動が遅れがちな子どもの支援により、子どもが楽しく学習に参加することができた。
- ミニバスケットボールの指導により、子どもたちの活動意欲や技能向上につながった。また、教師側も指導方法の在り方について学ぶ点が多々あった。
- 球技大会当日も児童に同行し、オフィシャルの行い方を支援することで、子どもたちと良好な関係づくりができた。
- 年齢に近いこともあり、子どもたちが楽しく学習に臨むことができた。
- 様々な子どもたちへの対応の仕方を学ぶ機会となり、教師を目指す学生にとって成長の機会になったと思われる。
- 教育実習で担当した学生の成長を継続して見届けることができ、喜びを感じた。

ウ 学生による学習支援ボランティア活動を実施してみた課題・改善点

- 学生が児童とのふれあいに喜びを感じて活動できるような内容を提供していきたい。
- 継続参加により、児童とのふれあいが深まり、支援の仕方も体得していくものと思う。より多くの学生に参加してほしい。
- 大学の講義が放課後学習の火曜日の夕方と重なっていることが多く、年度当初にやる気をもって登録したものの全く参加できなかった学生がいた。

エ 子どもたちの声

- 「教えてもらえるのがうれしい。」
- 「校外学習にいっしょに行けてうれしかった。」
- 「できなかったものができるようになった。」

- 「分からなかったものが分かるようになった。」
- 「放課後学習が毎週楽しみだ。」
- 「教生の先生と会えてうれしい。」
- 「優しく教えてくれて分かりやすかった。」

オ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

- より多くの学生が参加できるよう、活動の時期や時間の調整をしていきたい。
- 近隣の小学校として、これからも岩手大学と交流の機会を多く持っていきたくと考えています。よろしく願いいたします。
- 岩手大学の陸上競技場で、学生といっしょに陸上記録会に向けての取組を試みたい。
- 再募集を採用が決定している4年生だけでなく、教育実習を終え意欲に満ちている3年生にも行ってみたいかどうか。

② 地域コーディネーター

ア 学習支援ボランティア活動に対する地域コーディネーターとしての対応内容

- 登録した学生に放課後学習の日程を知らせた。(2～3ヶ月先)
- 学習支援の当日、参加した学生に、支援をする学年や学級を割り当てた。
- 学習支援の際、希望する学年を聞き、教育実習で担当した学年に入ってもらった。

イ 上記1の対応をしてみたの成果

- 保護者、地域ボランティアが少ない中、学生ボランティアには大活躍していただいた。大勢の児童を一人の学生で対応することもあった。
- プリント学習の場合、保護者、地域ボランティアの方は丸付けを、学生ボランティアは児童各々に寄り添って分からないことを考え方を含めて指導にあたっていた。すみ分けをすることで、効率のよい学習支援となった。
- 学生ボランティアが入るクラスは児童がとても嬉しそうで笑顔のもと学習ができた。
- 地域、保護者も学生がいることで(特に高学年の学習内容と向き合う時に)安心して対応

することができた。

ウ 学生による学習支援ボランティア活動に対し、上記1の対応をしてみたの課題・改善点

- 学生の前、後期のシラバス(授業)によって登録している学生ボランティアよりも実際にボランティアに参加できる学生は少なくなっている。大学1～4年生に学習支援ボランティアを幅広く理解いただき、登録者(参加者)が多くなることを期待したい。
- 毎年継続して取り組んでいただきたい。

エ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

- より多くの学生が学習支援ボランティアとして参加できる体制づくり。

(仁昌寺)

③ 登録学生に対するアンケート結果

ア 回答数と学年の内訳

登録した学生に対してアンケートを行った。質問数は12であり、30名からの回答があった。回答率は63.8%である。回答した学年の内訳については表2に示す。回答時期については、2022年12月20日から1ヶ月間である。

【表2】 回答した学生の学年による内訳

| 学年 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 |
|-------|-----|-----|-----|-----|
| 人数(人) | 19 | 3 | 4 | 4 |

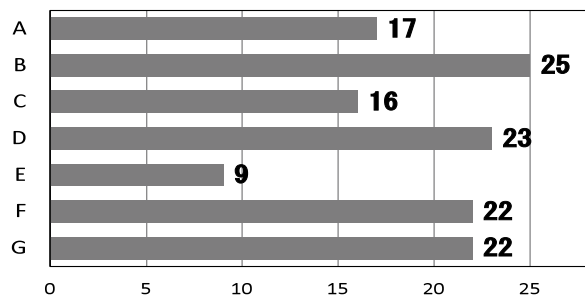
イ 学習支援ボランティア登録への動機

登録した動機について、8項目での選択式(複数選択有)による質問をし、回答が得られた。選択肢は、下のとおりである。

- 動機A 学習支援活動への興味や関心
- 動機B 教員を目指しており、その心構えづくり
- 動機C 教員としての資質・能力を得たい
- 動機D 学校現場の様子を理解したい
- 動機E 学校教育の活動へ貢献したい
- 動機F 子どもの理解や関わり方を知りたい
- 動機G 学校現場で、直接子供に関わってみたい

動機H その他

動機Hについては、1名の回答があり、「大学の授業で学んだことを実践で試してみたい」という回答であった。回答状況について、【図4】に示す。人数については、延べ数である。



【図4】 学習支援ボランティア登録への動機

ウ 学習支援ボランティア活動の実施回数

実施回数について、表3のように回数と学年について示す。

【表3】 学習支援ボランティア活動の実施回数

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 0回 | 5 | 3 | 0 | 1 | 9 |
| 1回 | 5 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| 2回 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 |
| 3回 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 4回以上 | 5 | 0 | 4 | 0 | 9 |
| 計 | 19 | 3 | 4 | 4 | 30 |

参加回数を0回と回答した9名に、その理由について自由記述による回答を求めた。それを内容ごとに下のとおり分類した。

- 大学の授業と実施時間が重なってしまった。(8名)
- 体調不良(1名)
- 自分の時間に余裕がなかった。(1名)
- アルバイトの時間と重なってしまった。(1名)

エ 学習支援ボランティア活動の実施内容

参加回数について1回以上と回答した21名には、ボランティア活動の内容について質問をした。このことについて、4項目での選択式(複数選択有)による質問をし、回答が得られた。選択肢は、下のとおりである。

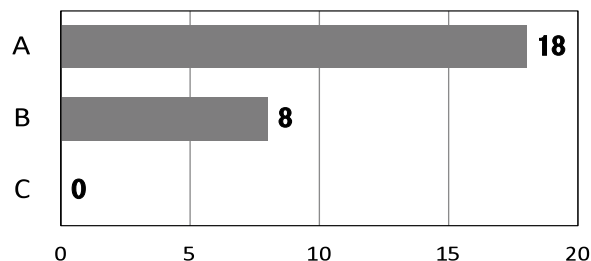
- 選択肢A 朝学習や放課後学習の支援(丸付けや個別指導)

- 選択肢B 校外学習の見守り支援

- 選択肢C 図書館の環境整備や貸出支援

- 選択肢D その他

選択肢Dについては、1名の回答があり、「家庭科のミシンがけ指導の補助」という回答であった。回答状況について、図5に示す。人数については、延べ数である。



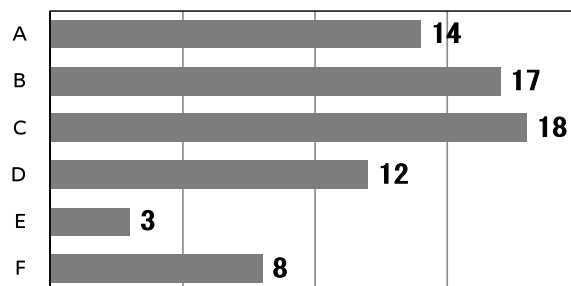
【図5】 学習支援ボランティアの実施内容

オ 参加して学んだことやよかったこと、成果

学習支援ボランティア活動に参加して学んだことやよかったこと、成果について質問した。このことについて、7項目での選択式(複数選択有)による質問し、回答が得られた。選択肢は、下のとおりである。

- 選択肢A 学習指導や支援の在り方
- 選択肢B 子どもの理解や関わり方
- 選択肢C 学校現場の様子
- 選択肢D 教職員の望ましい立ち居振る舞い
- 選択肢E 学校施設のもつ意義や必要性
- 選択肢F 教育活動の実施の仕方
- 選択肢G その他

選択肢Gについては、回答無しであった。回答状況について、図6に示す。人数については、延べ数である。



【図6】 参加して学んだことやよかったこと、成果

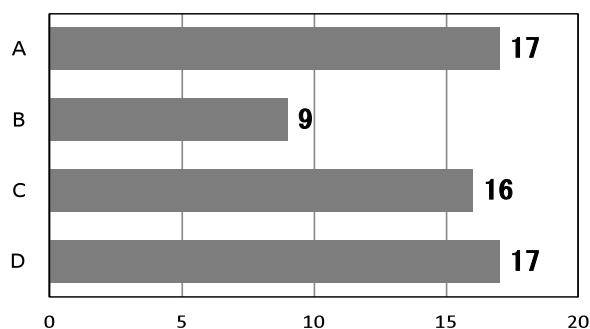
カ ボランティア活動に参加しての自分の課題

(佐藤寿)

学習支援ボランティア活動に参加しての自身が持った課題について質問をした。このことについて、5項目での選択式（複数選択有）による質問し、回答を得られた。選択肢については、下のとおりである。

- 選択肢 A 個に応じた指導や支援の在り方
- 選択肢 B 学級全体の掌握の仕方
- 選択肢 C 学年や年齢に応じた支援や関わり方
- 選択肢 D 教師・指導者としての立ち居振る舞い
- 選択肢 E その他

選択肢 E については、回答無しであった。回答状況について、図 7 に示す。人数については、延べ数である。



【図 7】 ボランティア活動に参加しての自分の課題

キ 大学と小学校との連携への意見

学習支援ボランティア活動の実施について、大学と小学校との連携に関わる意見や要望について質問した。この質問は、自由記述による回答を求めた。

6名の回答が得られ、内容により取りまとめたものについて、下の3つにまとめられる。

- 大学の授業とボランティア活動の設定の時間帯に重なりがあり参加が難しい。授業時間に即した設定をしてほしい。
- 教育実習だけでは不安だったので、この活動を通じて子ども達とコミュニケーションを取ることができた。学生にとって、とてもよい取り組みなので来年度も参加したい。
- 教育学部以外の学生でも教職を目指す人がいる。そのような人にも知らせるとよい。

4 学習支援ボランティア活動実践のまとめ

(1) 成果

- 地域の学校への学生派遣を通し、体験的に学校教育の実際、教職員の指導や学級経営、子どもの想い、保護者や地域の方々の想い等を理解する一助となり、教師へのあこがれをもつことにつながった。
- 課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えを促進することにつながった。
- 教員採用試験に合格した4年生の学生にとっては、4月からの教員生活に向けて、担任の動きをより意識した学習支援活動になったと思われる。
- 小学生の充実した学習活動につながり、学力向上、自己実現の一助となった。地域と共に子どもを育てる協働による教育を推進することができた。

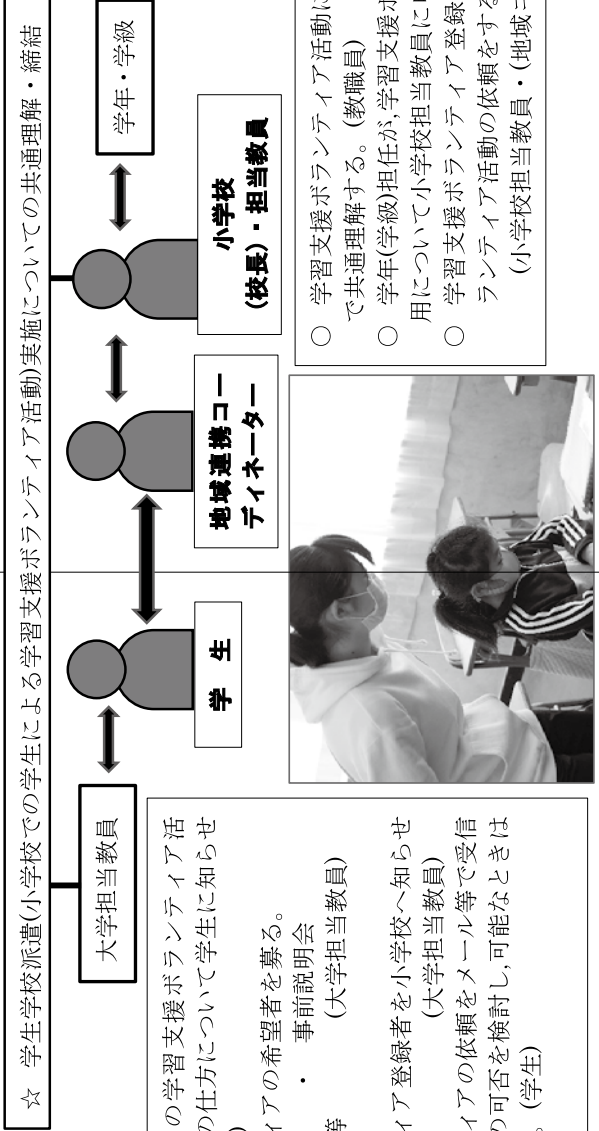
【資料⑨ 学習支援ボランティア活動実施状況（学習支援ボランティア活動実施報告書参照）】

(1) 課題

- より多くの学習支援ボランティア活動により、取組における有効性の検証を行っていく必要がある。コロナ禍における学習支援ボランティア活動の在り方について小学校とも対話を通して方向性を探っていきたい。
- 次年度は、学習支援ボランティアの再募集を3、4年生に広げ、より課題意識をもって学習支援活動に参加できるようにしていきたい。
3年生→主免実習の成果と課題を踏まえ、さらに学校現場で学習活動にかかわる場を保証する。
4年生→教員採用試験の結果を受け、4月からの教員生活に向け、より切実感をもって学習活動にかかわる場を保証する。

(仁昌寺)

令和4年度 上田小・仁王小 学習支援ボランティア活動(学生派遣)実施計画(概要) 【資料①】

| | | |
|-------------------|--|--|
| <p>1 目的</p> | <p>若手大学教育学部</p> <p>○ 地域の学校への学生派遣を通し, 学校教育の実際, 教職員の指導や経営, 子どもへの想い, 保護者や地域の方々への想いを知り, 教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに, 課題意識を具体的に持つこと教育実習や教員採用試験に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。</p> | <p>小学校</p> <p>○ 地域と共に子どもを育てる。【連携・協働の視点】</p> <p>○ 教師が, 子ども理解を基本に, 子ども向き合う時間をづくり, 基礎基本定着の一助にする。【学級経営・学力向上の視点】</p> <p>○ 教師も子どもも, 多様な知識や経験をもつ地域の方々や学生とふれ合うことを通して, 学習活動の充実を図るとともに, 地域や学生への愛着を深める。地域人材資源の積極的活用を図る。【教育振興運動・地域資源活用の視点】</p> <p>○ より多くの大人が目子どもたちを見守ること, よりきめ細やかな教育活動につなげる。</p> |
| <p>2 連携の実際(例)</p> | <p>☆ 学生学校派遣(小学校での学生による学習支援ボランティア活動)実施についての共通理解・締結</p>  <p>○ 「地域の小学校への学習支援ボランティア活動」の趣旨と実施の仕方について学生に知らせる。(大学担当教員)</p> <p>○ 学習支援ボランティアの希望者を募る。 ・ 申込み登録 ・ 事前説明会 ・ 保険加入 等 (大学担当教員)</p> <p>○ 学習支援ボランティア登録者を小学校へ知らせる。(大学担当教員)</p> <p>○ 学習支援ボランティアの依頼をメール等で受信する。ボランティアの可否を検討し, 可能なときは学習支援活動を行う。(学生)</p> | <p>○ 学習支援ボランティア活動について教職員間で共通理解する。(教職員)</p> <p>○ 学年(学級)担任が, 学習支援ボランティアの活用について小学校担当教員に申し出る。(教職員)</p> <p>○ 学習支援ボランティア登録者へメール等でボランティア活動の依頼をする。 (小学校担当教員・(地域コーディネーター)</p> |
| <p>3 期待される効果</p> | <p>○ さまざまな学習活動, きめ細かな学習の実現⇒学力の向上</p> <p>○ 安心・安全な学習活動の実現</p> <p>○ 地域や学生への愛着</p> | <p>○ さまざまな学習活動, きめ細かな学習の実現⇒学力の向上</p> <p>○ 安心・安全な学習活動の実現</p> <p>○ 地域や学生への愛着</p> |
| <p>4 その他</p> | <p>【学習支援ボランティア活動の内容例】 ○ 朝学習や放課後学習支援(○付けや個別指導) ○ 実技等学習支援(家庭科ミシン縫い補助 水泳・陸上等体育動きづくり補助) ○ 校外学習安全見守り支援 ○ 特別支援学級学習支援 ○ 算数等授業の中での学習支援</p> | |

令和4年度 学習支援ボランティア活動(上田小・仁王小への学生派遣)年間スケジュール計画 【資料②】

| 活動内容 | 期日(予定) | 具体的な活動内容 | 留意点等 |
|---|----------------------|--|--|
| 1 ○ 実施計画等作成 ・ 実施計画 ・ 年間スケジュール計画 ・ 募集案内ちらしの作成 | ～4月15日(金) | ・ 実施計画(大学,小学校画面の立場から学生派遣の目的,意義や実際の動き等を紙面に位置付ける。) ・ 年間スケジュール(昨年度の動きをもとに,期日を調整する。) ・ 募集案内ちらし(目的,対象学年,活動内容例,実際の動きを端的に位置付け作成する。) | ・ センター会議提示 |
| 2 ○ 受入れ小学校訪問 | 4月19日(火) | ・ 令和4年度の学生派遣(学生による学習支援ボランティア活動)の受入れについて,2小学校を訪問し,所属長に依頼する。 | ・ 実施計画,スケジュールの資料持参 |
| 3 ○ 学習支援ボランティア募集 | 4月25日(月) ～5月6日(金) | ・ 募集ちらしの配付 ・ 説明会の開催 ・ 拡大ちらしの掲示(申込み書を自由に取れるように) | ・ QRコード,入力フォームによる申し込み(正確なアドレス登録) ・ メールアドレスを正確に転記・把握 |
| 4 ○ 学習支援ボランティア登録者の把握 ・ 登録者名簿の作成 ・ メールアドレス帳入力 | 5月9日(月) ～5月20日(金) | ・ 上田小登録,仁王小登録,両校登録を確実に把握し,それぞれの名簿を作成 | ・ メールアドレスを正確に転記・把握 |
| 6 ○ 事前説明会の開催 | 5月25日(水) | ・ 「学習支援ボランティア活動実施要項」を作成し,来校態度,活動の進め方,留意事項,報告書の作成等を共通理解 | ・ マスクの着用,検温等,感染防止に万全を ・ 対面での説明会実施 ・ 非接触型検温器を貸与 |
| 7 ○ 受入れ小学校訪問 ・ 受入れ依頼文書 ・ その他資料添付 | 5月30日(月) | ・ 受入れ依頼文書の他,事前指導資料等を添付し,直接訪問し,依頼する。また,具体の動き等について打合せを行う。 | ・ 訪問時に,報告書を受け取る |
| 8 ○ 学習支援ボランティア活動の開始(～令和5年2月) | 6月1日(水) ～2月28日(火) | ・ 適時適所,小学校を訪問し情報交換を行う。 ・ ボランティア活動後は,「報告書」に感想等を記述し,小学校の担当の先生に提出させる。 |    |
| 9 ○ 4年生の学習支援ボランティア再募集→事前説明会→小学校訪問(追加登録者名簿共有) | 10月下旬 | ・ 教員採用試験結果発表後,4年生の学習支援ボランティアを再募集し,登録があった学生に事前説明会を行い,活動の進め方や留意事項等の共通理解を図る。その後,各小学校を訪問し,ボランティア追加学生を知らせる。 | ・ 追加登録者名簿 |
| 10 ○ アンケートの実施 | 12月19日(月) ～23日(金) | ・ 小学校用,登録生用,それぞれのアンケートを作成し,メール等で回答 事業の成果と課題を受け入れ学校,登録生サードから捉える | ・ 活動の機会がなかった学生にも提出を求め ・ 事業の目的が達成できたか,成果と課題を明確に |
| 11 ○ 活動報告作成 | ～1月31日(火) | ・ 活動経過,アンケートのまとめを中心にまとめる。 | ・ 小学校側の成果と課題についても把握 |
| 12 ○ 礼状作成・送付 | 3月1日(水) | ・ 礼状を持参し,小学校を訪問 ・ 懇談を通し,次年度の方向性を話題に | |

※ 学習支援ボランティア活動中における事故は, 学生教育研究災害障害保険で対応する。

盛岡市立上田小学校・仁王小学校への 学習支援ボランティア

【資料③】



募集!

1 目的

地域の小学校での学習支援ボランティア活動により、①学校教育活動 ②教職員の指導や業務 ③子どもの想い ④保護者や地域の方々の想いを知る。

2 募集の対象学年

- 岩手大学教育学部の学生（1年生～4年生）

3 学習支援ボランティア活動の内容例

算数科などの学習支援（個別指導や丸付け等） 実技等の学習支援（家庭科ミシン縫い・アイロンがけ補助） 校外学習安全見守り支援 朝学習・放課後学習支援（丸つけや個別指導 図書館環境整備 等）

4 学習支援ボランティア登録と活動の実際の流れ（予定）

- ① 学習支援ボランティア登録をする。（QRコードから入力フォームにアクセスし、下記の必要事項を入力してください。）
 - ※ 必要事項 （1）メールアドレス （2）学籍番号 （3）氏名 （4）氏名（かな） （5）学年 （6）所属コース （7）生年月日 （8）登録を希望する小学校（上田小・仁王小・両校のいずれかを選択） （9）電話番号
 - ※ 登録いただいた個人情報は、学習支援ボランティア事業に係る目的以外では使用しません。
- ② 小学校の学習支援ボランティア担当教員或いは地域コーディネーターからボランティア活動の依頼メール（活動期日・時間 活動内容 支援内容 等）が登録者に送信される。
- ③ 学習支援ボランティアの可否をメールで返信する。
- ④ 小学校で学習支援ボランティア活動をする。
- ⑤ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。（②～⑤を繰り返す。）



※ 申込み締切日： 令和4年5月6日（金）17時厳守

※ 昨年度、申込み登録した方も、希望する場合は、改めて申込みをしてください。

【担当教員】 佐藤寿（420研究室） 621-6528 toshis@iwate-u.ac.jp
仁昌寺（308研究室） 621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp

令和4年度 学習支援ボランティア活動 実施要項 【資料④】

1 態度(姿勢)

- ① 学校は子どもたちが中心の場である。教育の一端に携わることに情熱と使命感をもち、誠実・真摯な態度で学習支援ボランティア活動に臨むこと。
- ② 学習支援ボランティア活動の目的をよくわきまえ、豊かな体験を得ることができるように努めること。

2 学習支援ボランティア活動の進め方

- ① ボランティア活動の依頼メールが登録者に送信される。
◇活動期日・時間 ◇支援内容 等
- ② 学習支援ボランティアの可否(その日都合がつくかどうか)を返信する。
- ③ 小学校で学習支援ボランティア活動を実施する。
- ④ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』(別紙)に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。
①～④を繰り返す。

3 学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き(例)

- ◇ 持参するもの(筆記用具 『学習支援ボランティア活動実施報告書』 マスク 等)
- ◇ 服装(私服:派手でない質素な服装)
- ◇ 自転車は所定の自転車置き場へ置く。
- ◇ 職員玄関から入る→あいさつをする(「岩手大学から参りました学習支援ボランティアの〇〇です。よろしく願います。」)
- ◇ 担当の先生等の指示に従って学習活動を支援する。
- ◇ 学習支援終了後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入する。
- ◇ あいさつをし、報告書を小学校の担当者に提出し、退校する。(「岩手大学学習支援ボランティアの〇〇です。本日の学習支援を終了いたします。ありがとうございました。失礼いたします。」)

4 注意事項

- 学習活動開始時刻の**10分前**には出校し、あいさつ後、学習活動支援の簡単な打ち合わせを行う。
- 病気、その他の事由により出校できないとき、或いは遅れて出校するときは、事前に学校に電話連絡をすること。また、体調が悪くなったり、諸事情により早退したりしたい際にも、小学校の担当教員に申し出ること。
- 児童を校外に連れ出したり、児童の家庭を訪問したりしないこと。また、児童との連絡先の交換をしないこと。SNSを通しての交流についても絶対にしないこと。
- 毎日、朝に検温をし、記録すること。(「**学習支援ボランティア健康観察票**」の活用) ボランティア活動直近1週間以内に一度でも体温が**37.5度以上**あったときや、明らかに平熱より高く具合が悪いときには、予定日の学習支援ボランティア活動の参加を辞退すること。

5 『学習支援ボランティア活動実施報告書』『健康観察票』の配付について

- 事前指導の資料といっしょに配付します。大学担当教員(佐藤寿・仁昌寺)の研究室前にも準備しますので必要に応じて使用してください。

6 その他

- 学習支援ボランティア活動中のけが等について
学習支援ボランティア活動中に、学生の皆さんが、けが等をした場合には、学生教育研究災害障害保険で対応します。
- 連絡先について
学習支援ボランティア活動についての問い合わせや連絡等は下記に行ってください。

- ◆ 岩手大学担当教員
仁王小学校担当 佐藤 寿 仁 (さとう としひと)
☎019-621-6528 toshis@iwate-u.ac.jp
- 上田小学校担当 仁昌寺 真 一 (にしょうじ しんいち)
☎019-621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp
- ◇ 仁王小学校 ☎019-623-4214 担当 主幹教諭 山本 のり子(やまもと のりこ)
- ◇ 上田小学校 ☎019-623-3428 担当 教務主任 山野目 道子(やまのめ みちこ)

※ 上記の電話番号は、すべて登録し、連絡が確実につくようにお願いします。

令和4年度 学習支援ボランティア活動 実施報告書 【資料⑤】

小学校名

学生氏名

| | | 報 告 内 容 |
|---|---------------|----------------|
| 1 | 期 日 ・ 時 間 | |
| 2 | 学 習 支 援 の 内 容 | (学年・学級・支援の内容等) |
| 3 | 感 想 | (学んだこと・成果や課題) |

令和4年度 学習支援ボランティア活動 実施報告書

小学校名

学生氏名

| | | 報 告 内 容 |
|---|---------------|----------------|
| 1 | 期 日 ・ 時 間 | |
| 2 | 学 習 支 援 の 内 容 | (学年・学級・支援の内容等) |
| 3 | 感 想 | (学んだこと・成果や課題) |

【資料⑦】

令和4年5月31日

盛岡市立上田小学校

校長 和田 英 殿

岩手大学教育学部長

境 野 直 樹

本学部学生による 学習支援ボランティア(学生派遣)の受入れについて(依頼)

新緑の候、貴殿におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは、本学部学生による、貴校への学生派遣(学習支援ボランティア)をお引き受けいただき誠にありがとうございました。心より感謝と御礼を申し上げます。

地域の学校において、教職員の動きを体感したり、子ども・保護者・地域の方々の想いを実感したりする体験を通して、教員へのあこがれを抱き、学生としてのさらなる学びを深めていくことができる機会の一つにいたしたいと考えています。

何卒趣旨をご理解の上、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1 学習支援ボランティア活動期間 令和4年6月～令和5年2月

2 その他

① 学習支援ボランティア活動の進め方 【別添資料①②③④参照】

※ 資料① 学習支援ボランティア活動実施計画(概要)

資料② 学習支援ボランティア活動年間スケジュール計画

資料③ 学習支援ボランティア募集ちらし

資料④ 学習支援ボランティア活動実施要項(学生への事前指導資料)

② 学習支援ボランティア登録者一覧 【別添資料⑤参照】

③ 学習支援ボランティア活動実施報告書 【別添資料⑥参照】

※ 学習支援ボランティア活動を行った学生が記述し、小学校の担当の先生に提出します。実施報告書は、大学担当教員が適宜、取りに伺います。

④ 学習支援ボランティア健康観察票 【別添資料⑦参照】

※ 学生が記述し、自分自身の健康管理のために活用します。

問い合わせ先

岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

客員教授 仁昌寺 真一(にしょうじ しんいち)

020-8550 盛岡市上田三丁目18番33号

Tel 019-621-6686(直通)

E-mail nishozi@iwate-u.ac.jp

4年生の学生限定!

【資料⑧】

盛岡市立上田小学校・仁王小学校への



学習支援ボランティア 再募集!

1 目的

地域の小学校での学習支援ボランティア活動により、①学校教育活動 ②教職員の指導や業務 ③子どもの思い ④保護者や地域の方々の思いを知る。

2 再募集の対象学年

- 岩手大学教育学部の 4年生【4月から教員として教育現場で勤務する予定の方（講師含む）】

3 学習支援ボランティア活動の内容例

算数科などの学習支援（個別指導や丸付け等） 実技等の学習支援（家庭科ミシン縫い・アイロンがけ補助） 校外学習安全見守り支援 朝学習・放課後学習支援（丸つけや個別指導 図書館環境整備 等）

4 学習支援ボランティア登録と活動の実際の流れ（予定）

- ① 学習支援ボランティア登録をする。（QRコードから入力フォームにアクセスし、下記の必要事項を入力してください。）
 - ※ 必要事項 （1）メールアドレス （2）学籍番号 （3）氏名 （4）氏名（かな） （5）所属コース （6）生年月日 （7）登録を希望する小学校（上田小・仁王小・両校のいずれかを選択） （8）電話番号
 - ※ 登録いただいた個人情報は、学習支援ボランティア事業に係る目的以外では使用しません。
- ② 小学校の学習支援ボランティア担当教員或いは地域コーディネーターからボランティア活動の依頼メール（活動期日・時間 活動内容 支援内容 等）が登録者に送信される。
- ③ 学習支援ボランティアの可否をメールで返信する。
- ④ 小学校で学習支援ボランティア活動をする。
- ⑤ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。（②～⑤を繰り返す。）



※ 申込み締切日： 令和4年10月25日（火）17時厳守

※ 登録された方全員を対象に、事前説明会を開催します。（10月下旬予定。追って案内いたします。）

※ すでに、4月に申込み登録をしている4年生の学習支援ボランティアの方は、申込みの必要はありません。

【担当教員】 佐藤寿（420研究室） 621-6528 toshis@iwate-u.ac.jp
仁昌寺（308研究室） 621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp

令和4年度 学習支援ボランティア活動 実施状況(学習支援ボランティア活動実施報告書から)(一部抜粋) 【資料⑨】

| | 期日・時間 | 学習支援内容 | 学生の声(感想欄から) | 学生 |
|---|-------------------------|-------------------------------|---|----|
| 1 | 6月24日(金) 8:15~9:30 | 朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(6年) | 膨大な数のプリントの採点を日常的に行っている先生方は、とてもたいへんだと感じた。朝学習の際に、ほとんど悩まずに解いている子どももおれば、自力で解くのに苦労している子どももいて、かわり方に苦慮した。 | 2年 |
| 2 | 7月1日(金) 8:15~9:30 | 朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(5年) | 体育水遊び学習支援(2年) | 1年 |
| 3 | 7月1日(金) 10:40~11:25 | 生活科校外学習支援(2年) ザリガニ釣り | ワニ歩き、たるま浮き、けのびなどの支援を行いました。プールへの移動引率、学習活動支援を主に行いました。子どもたちは安全に気を付けて学習することができていました | 3年 |
| 4 | 7月4日(月) 9:30~10:30 | 朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(5年) | 子どもたちの安全を第一に活動を見守りました。池に落ちたり、転んだりする子どももいくつかよかったです。私が支援した班では、なかなかザリガニが釣れませんでした、「どんな所にザリガニがいるかな？」などと声をかけ、たくさん子どもたちと交流することができました。自分もザリガニについて勉強してから参加すればよかったと感じました。 | 1年 |
| 5 | 9月2日(金) 8:15~9:30 | 校外学習支援(1年小岩井農場) | 割り算の解き方を、子どもたちに分かる言葉で伝えることがとても難しいと感じた。教科書を見て、どのように学んでいるのか確認する必要があると感じた、また、丸付けをしていて、ミスしやすい部分を知ることができた。三桁で十の位が空位の引き算のミスをする児童が多かったので、その部分に注意を払って次回は支援したい。 | 1年 |
| 6 | 9月9日(金) 8:45~14:30 | 女子ミニバスケットボールオフ イシヤル支援 | 1年生の子どもたちがとてもパワフルで圧倒された。子どもたちがたくさん話しかけてくれたので、とてもうれしかった。虫など興味あることに熱中してしまうため、それを止めて、次の活動に入ることができているように声をかけることが難しかった。もつと、子どもの中に居くような声をかけることができようになりたいたい。 | 4年 |
| 7 | 9月15日(木) | 家庭科ミシンのがけの補助(5年) | 市内球技大会に同行し、オフイシヤルの支援を行った。練習のときと違い、審判に「タイマーを止めて。」と指示された時に、すぐに対応することができ、公平なオフイシヤルを上手にすることができたと思う。審判や選手に対し、感謝の気持ちを伝えることができ、試合をしやすい空間をつくることができていた。試合では悔しい結果となったが、最後まであきらめずにかかんに攻めることができていて、気持ちでは常に勝ち、人の心を動かすプレーができていて、とてもうれしく感じた。 | 1年 |
| 8 | 9月28日(水) 13:55~15:40 | 朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(5年) | ミシンを使って布を縫うことが初めての児童が多かったが、どの児童も集中して丁寧に縫っていた。苦手なことは、一人一人違うので、分かりやすいように少しずつ実践してみせることを心がけた。その後、子どもたちも、どのように作品作りに取り組むのか、とても楽しみである。 | 1年 |